

エムズ・デーリィ・ラボ便り

「夏の敷料細菌検査の重要性」

重篤な症状を示し、時には死亡の原因にもなる大腸菌やクレブシエラの乳房炎は、夏に多く発症します。

夏の環境性乳房炎を予防するには、敷料管理を徹底して牛床をクリーンでドライにしておくことが重要です。

敷料とフリーバーンの表面の環境性乳房炎原因菌数

敷料	環境性 レンサ球菌	大腸菌	クレブシエラ	その他の 大腸菌群	その他の グラム陰性菌
使用前オガクズ1	0	0	0	0	0
使用前オガクズ2	1×10^5	0	0	0	0
使用前オガクズ3	1.6×10^7		0.1×10^4	1.9×10^6	0
戻し堆肥1	1.2×10^4		0	0	0
戻し堆肥2	1.85×10^7	2×10^5	1×10^4	1×10^4	3×10^6
フリーバーンの表面	8.7×10^7	5×10^5	2.58×10^7	1.8×10^7	2.5×10^7

(単位: CFU/ml、エムズ・デーリィ・ラボ)

細菌数が 10^4 以上は危険、 10^6 は最悪

使用前にすでに細菌が増殖しているケースもあるので、敷料の細菌検査を実施して、敷料の汚染具合を把握することは重要です。石灰を混ぜると細菌数を減少させる効果があります。